## 演習1 とりあえず動かしてみよう

### 流れ

- •Rのパッケージのインストール
- ・実行の流れ
- Rによる結果の表示
- 中身はどうなっているのか?
- 感度分析をしてみよう

### ここで用いるツール

- Stock Synthesisプログラム ⊶ パラメータ推定
  - ✓ NOAA tool boxからDLしたものがデータフォルダの中に一緒に入っています
  - ✓ version 3.24f
- 結果の可視化用Rパッケージ sstools
  - ✓ 市野川のHPから配布
  - ✓ その他,本家の結果可視化用Rパッケージ(r4ss)もありますが,ここでは sstoolsを中心に使います
  - ✓ r4ss: 見栄えが良い、常に最新バージョンに対応、充実したモデル診断
  - ✓ sstool: ちょっと格好悪い, バージョン対応は遅い, 複数の結果を重ね書き できる

#### ・ソフトウエア

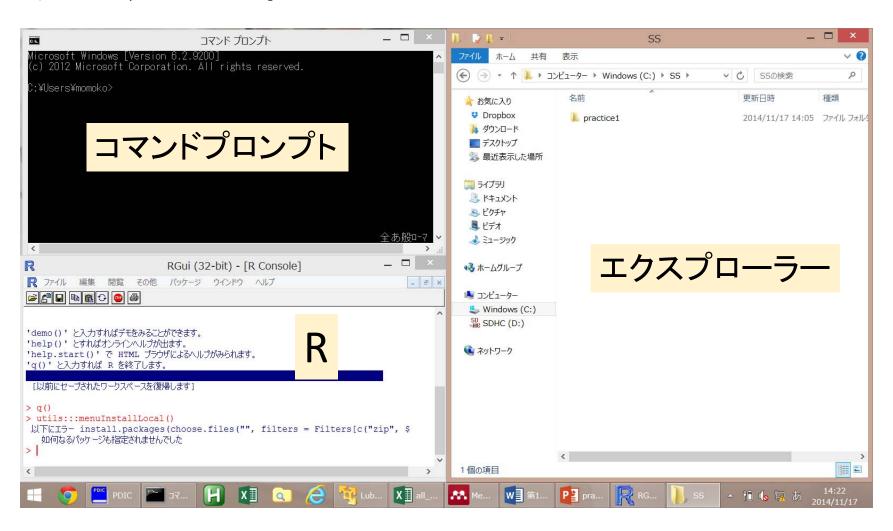
- ✓ R ⊶ sstoolsを走らせ、結果の可視化をします
- ✓ テキストエディタ ⊶ 設定ファイルを編集したり, 推定されたパラメータを見たりするのに使います
- ✓ Acrobat Reader ⊶ sstoolsの出力結果を見るのに使います

### 事前準備

コマンドプロンプト・テキストファイルの編集・Rを 行ったり来たりします

それぞれの環境の整備を行い、プログラムを 回してみます

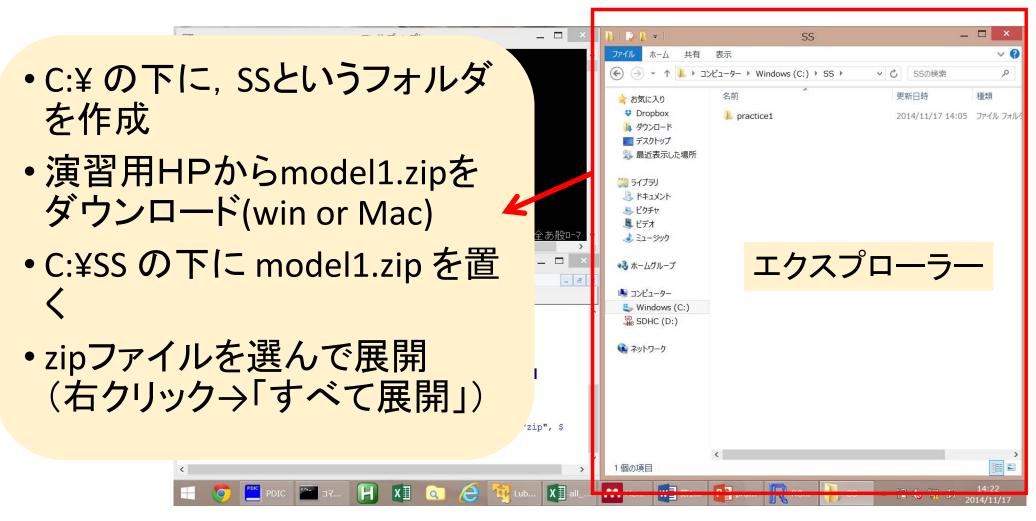
### やりやすい配置



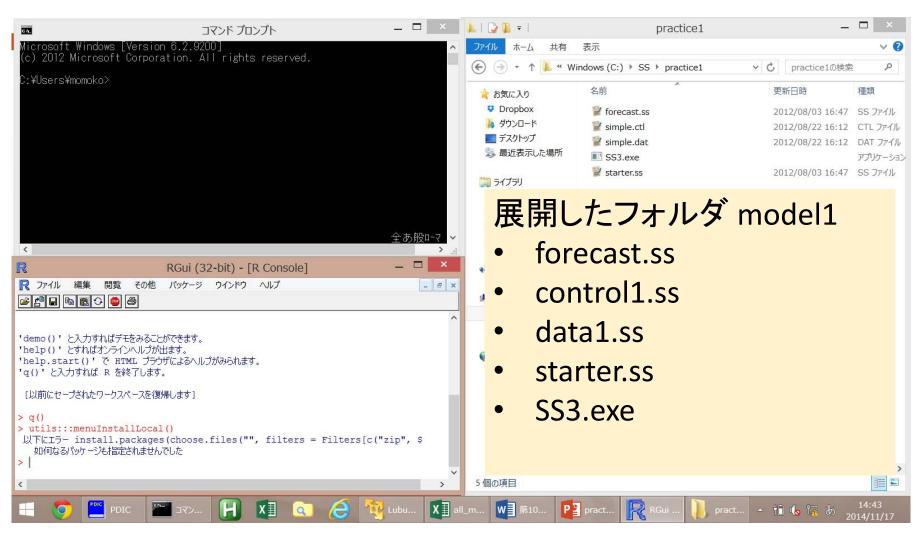
### エクスプローラーの設定

- 「拡張子を表示する設定」に変えてください
- Windows 8の場合
  - ✓ エクスプローラーの「表示」→「オプション」→「表示タブ」→「登録 されている拡張子は表示しない」のチェックを外す

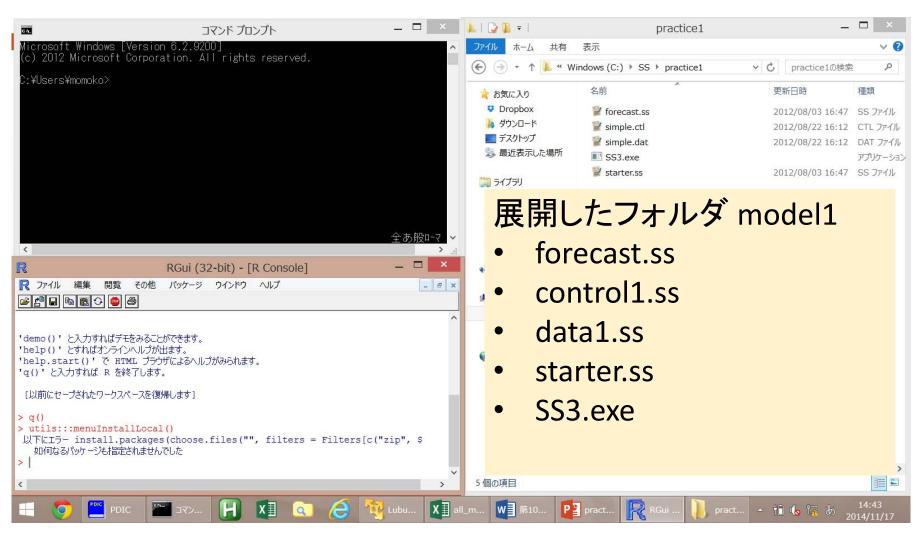
### 作業フォルダの作成・データのDL

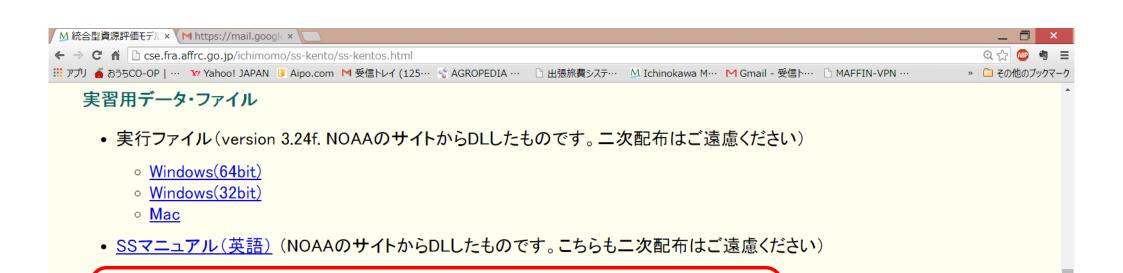


### 作業フォルダの作成・データのDL



### 作業フォルダの作成・データのDL





概要

12日(金)

- 10:00-10:30 <u>背景·趣旨説明</u>(市野川)
- 10:30-12:00, 13:00-14:00 統合モデル Stock Synthesis の概要(北門)
  - SSで仮定しているモデルの構造、データ、そして利用されている統計推測のフレームワーク











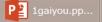


• モデル1ファイル(演習1-2) model1.zip(for Windows), model1\_mac.zip(for Mac)

• モデル2ファイル (課題) model2.zip (for Windows), model2\_mac.zip (for Mac)



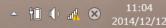








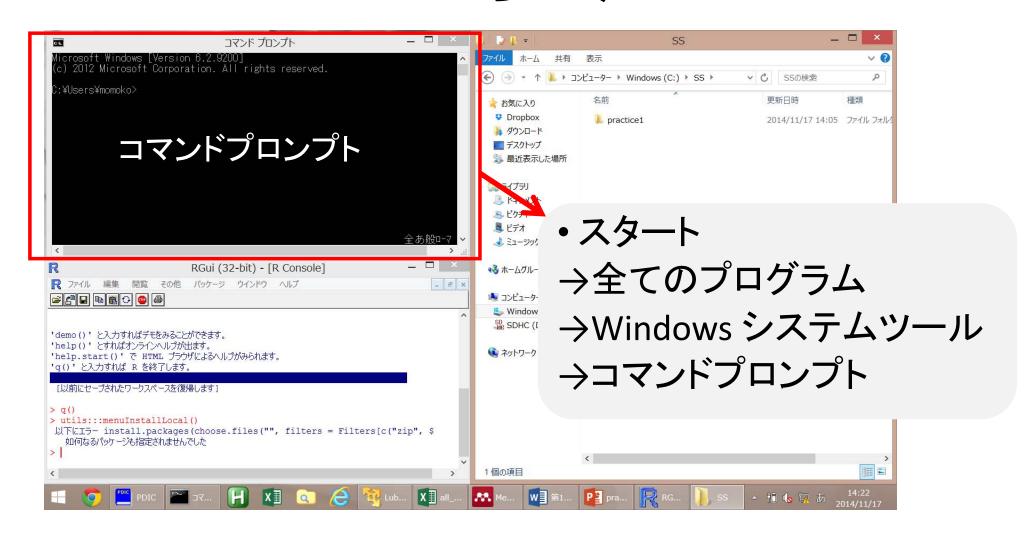
に保存



ダウンロードして、SSフォルダ



### コマンドプロンプトの立ち上げ

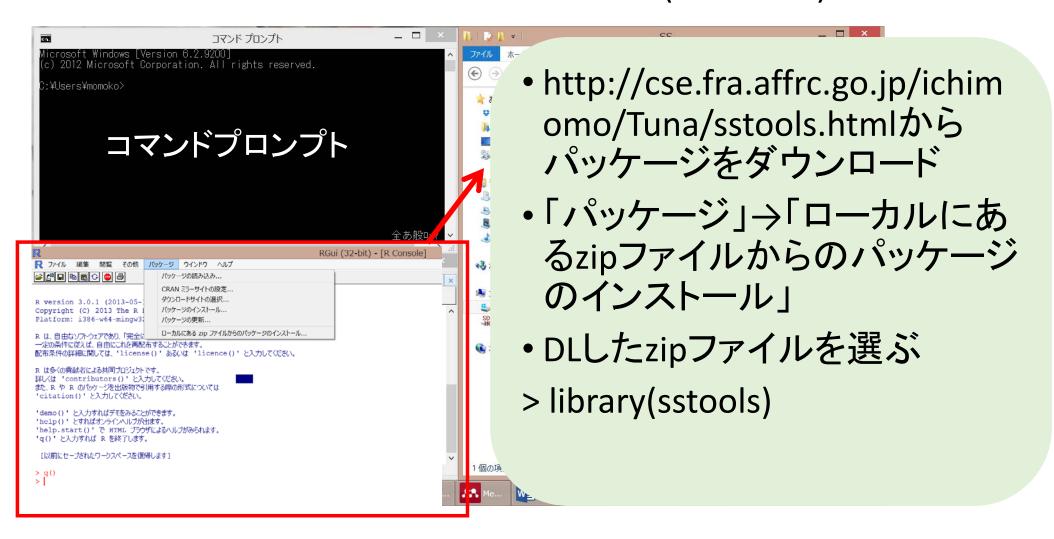


#### Rの立ち上げ ・スタート →全てのプログラム コマンド プロンプト licrosoft Windows [Version 6.2.9200] c) 2012 Microsoft Corporation. All rights reserved. :\Users\momoko> $\rightarrow$ R コマンドプロンプト ライブラリ パキュメント **ふ**ピクチャ ₫ ビデオ ▲ ミュージック エクスプローラー \_ 🗆 × RGui (32-bit) - [R Console] ペ ホームグループ R ファイル 編集 閲覧 その他 パッケージ ウインドウ ヘルブ - 8 x ■ コンピューター Windows (C:) SD SDHC (D:) 'demo()' と入力すればデモをみることができます。 'help()' とすればオンラインヘルプが出ます。 'help.start()' で HTML ブラウザによるヘルプがみられます。 ( ネットワーク 'g()' と入力すれば R を終了します。 [以前にセーブされたワークスペースを復帰します] > utils:::menuInstallLocal() 以下にエラー install.packages(choose.files("", filters = Filters[c("zip", \$ 如何なるパッケージも指定されませんでした

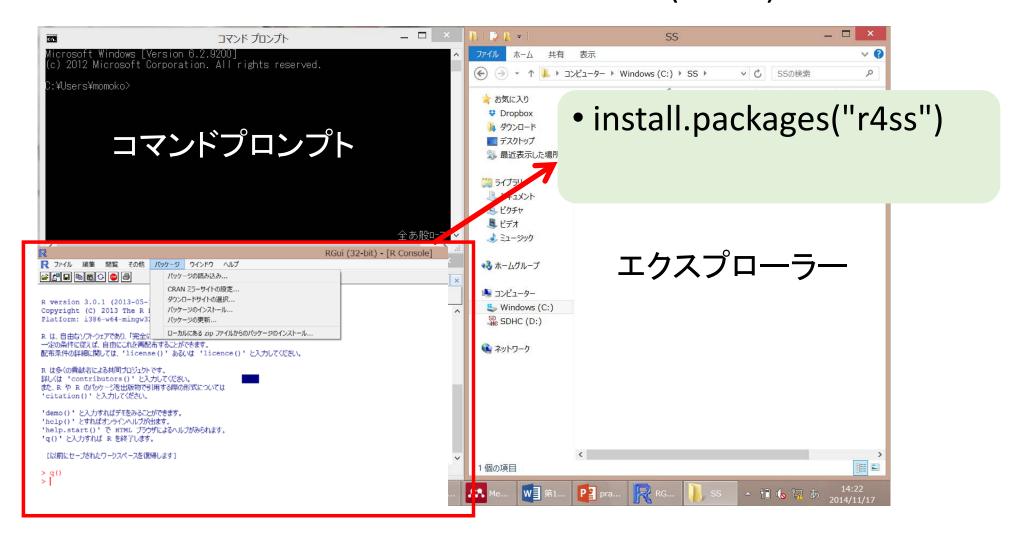
1個の項目

W] 第1.

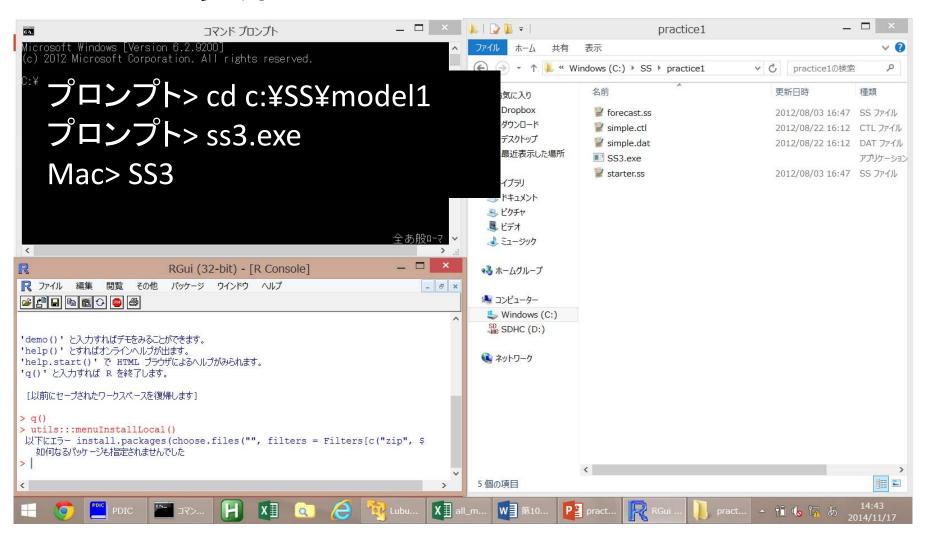
### R:パッケージのインストール (sstools)



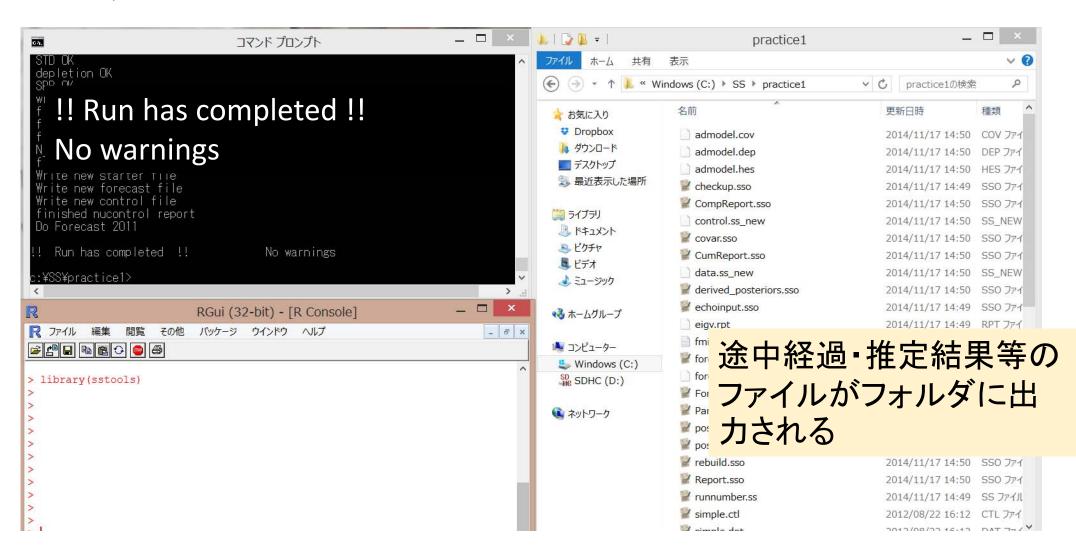
### R:パッケージのインストール (r4ss)



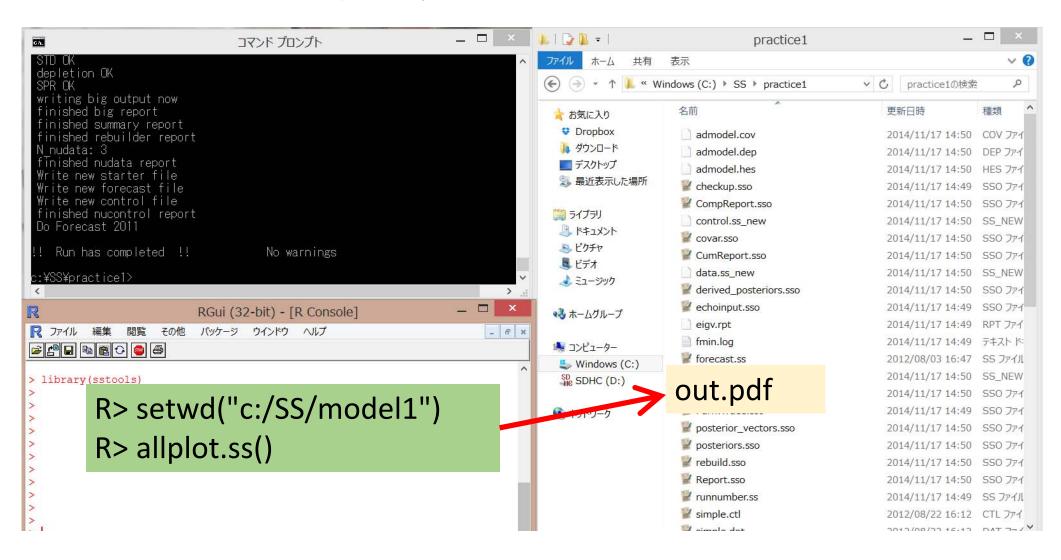
### いよいよ実行



### 計算終了



### Rを使って結果を表示



### out.pdf

```
R> setwd("c:/SS/model1")
R> allplot.ss() # 様々なオプションが省略されています
R> allplot.ss(repfile="Report.sso",
        compfile=c("CompReport.sso")) # 良く使うオプション
```

# Report.sso ← 資源量や漁獲率等のメインの結果 # CompReport.sso ← サイズ組成のフィットの結果

# 演習1:モデルの設定によって結果がどう変わるか試してみよう

- 自然死亡係数を0.25から0.3へ変更してみる
- model1 フォルダをコピーして, model1-Mフォルダを作る
- control1.ssをテキストエディタで開いてここの数字を0.2に

```
#_生物パラメータ(自然死亡・成熟・成長)
```

#\_LO HI INIT PRIOR PR\_type SD PHASE env-var use\_dev dev\_minyr dev\_maxyr dev\_

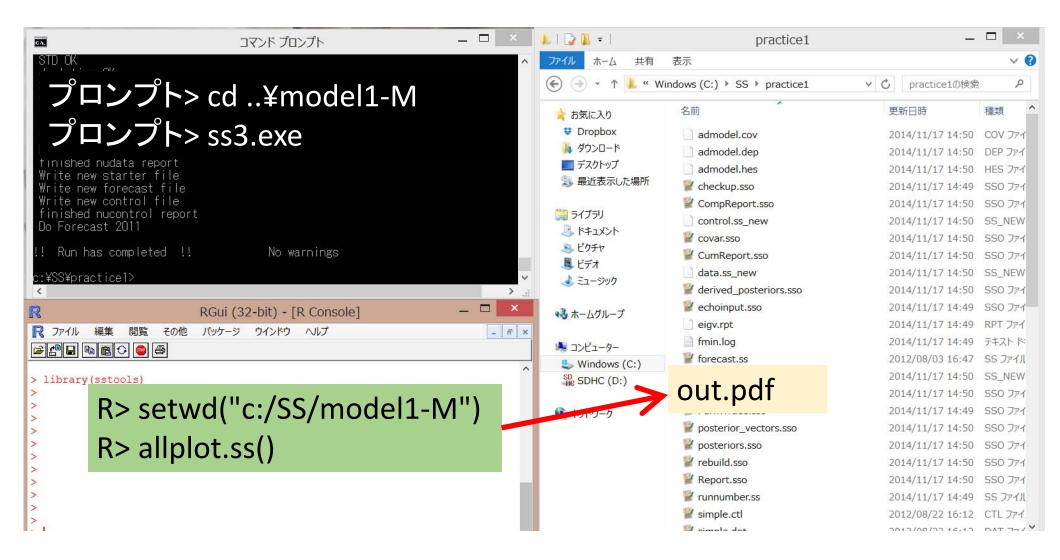
0.1 0.6 0.25 0.25 0 1000 -3 0 0 0 0 0.5 0 0 # M

5 100 20 20 0 1000 -3 0 0 0 0 0.5 0 0 # Aminのときの体長(Lmin)

30 200 100 100 0 1000 -4 0 0 0 0 0.5 0 0 # Amaxのときの体長(Lmax)

0.01 0.65 0.15 0.15 0 1000 -4 0 0 0 0 0.5 0 0 # VB式のK

### Model1-Mで走らせる



### 両者の違いを比較してみよう

R> allplot.ss(repfile=c("../model1/Report.sso","Report.sso"), compfile=c("../model1/CompReport.sso","CompReport.sso"))

# 2種類のReport.ssoとCompReport.ssoをベクトルとして指定
→結果が重ね書きされる